

社会科学学習指導案

指導者 ○○小学校
教諭 ○○ ○○

- 1 単元名 世界に歩み出した日本
- 2 対象学年 第6学年
- 3 指導計画 6時間：本時3／6
- 4 本時のねらい

陸奥宗光と小村寿太郎がどのようにして条約改正をしたのかを資料から読み取り、二人の条約改正にかかわる働きや願いについて考えることができる。

5 指導過程

学習活動・主要発問	予想される児童の反応	指導上の留意点・支援	【観点】評価 (方法)
1 本時の課題を把握する。 (1) 前時の学習を想起する。 ・ノルマントン号事件 ・不平等条約の影響 (2) 不平等条約改正までの道のりを年表で確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ノルマントン号事件はひどい。 ・日本人はきっと悔しい思いをしていた。 ・改正まで時間がかかった。 ・なぜ改正できたのだろうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・この時代の主な出来事や人々の思い、条約改正がなかなか進まなかったこと、そのような折に陸奥宗光と小村寿太郎は条約改正に成功したことを確認し、なぜ条約改正することができたのか課題意識をもたせる。 	
陸奥宗光と小村寿太郎は、なぜ条約を改正させることができたのだろうか。			
2 なぜ不平等条約が改正できたのか、自分で考えた予想と根拠を発表する。 3 なぜ不平等条約が改正できたのか、資料を基に考える。 4 分かったことをノートにまとめる。 5 自分の考えをグループで出し合い、話し合う。 6 全体交流をする。 7 学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな戦争があるよ。 ・戦争をきっかけにしたのかな。 ・強気の交渉をしたのかな。 ・大金を払ったのかもかもしれない。 ・陸奥宗光が治外法権の撤廃に活躍した。 ・日露戦争に勝利し、米国が日本の力を認めた。 ・小村寿太郎が関税自主権を回復させた。 ・陸奥宗光は英国と、小村寿太郎は米国と、大きな力を持っている国との交渉をした。 ・日本を諸外国と対等な立場にしたいという思いがあった。 ・産業が発展してきた日本に、イギリスが協力を求めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ条約を改正させることができたのかこの時代の主な出来事や人々の思いなどを基に予想をさせ、児童が「交渉成功の要因」という視点をもって【番組視聴】できるようにする。 ・教科書や資料集で情報を読み取るだけでなく、二人の働きについて自分の考えをもちやすくするために番組視聴をさせる。 ・番組から分かったことだけでなく、教科書や資料集から分かったことも合わせて考えさせるようにする。 ・自分の考えを付箋に書かせることで、話し合いの際に友達の考えと比較したり、関連付けたりしやすくする。 ・まとめた内容を視覚的に伝えることができるよう、全体交流では、班でまとめたワークシートを【タブレットPC】を使って【大型テレビ】に映しながら説明させる。 ・大国との交渉にあたった二人の働きが条約改正につながったことを確認する。 	<p>【思】陸奥宗光と小村寿太郎の交渉成功の要因について、共通点等を基に考えたり、条約改正の願いや働きについて考えたりしている。(ノート)</p>